

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790200178		
法人名	綾歌の太陽株式会社		
事業所名	多機能型ホーム 綾歌の太陽		
所在地	丸亀市綾歌町岡田東901番地1		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町受理日	初受審

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成24年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>理念に記載されているように「世の為・人の為・いつも笑顔で」を常に考え、利用者様、ご家族様と我が家のように、家族のように、住み慣れた地域で隣近所の人々が楽しいひと時をもてる地域密着型の事業所として、お一人おひとりに適したサービスの提供を行っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>地域密着型の特徴を活かし、地元へ根差した事業所となることを目指している。契約前に利用体験をすることができるため、その後、安心してサービスを利用することができ、利用者は、ホームに来ることを楽しみにしている。平成24年4月1日に開設したばかりであるが、介護施設勤務経験者が運営の中心を担っており、職員への研修も積極的にすすめている。ホーム内は落ち着いた雰囲気であり、くつろいで過ごせるような配慮もみられる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が築いてきた地域との関わりを断つことなく継続支援し、職員全員が理念の持つ意義・役割を理解し、利用者支援のための指針としている。日々のミーティングや日常介護の場面で実践できるよう話しあっている。	「世のため 人のため いつも笑顔で」を理念とし、地元の人が気軽に訪れてくれるような明るい雰囲気、和やかに過ごせるよう、職員は笑顔で接するよう心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者様は地元の方が多いため地域行事には自由に出入りでき、積極的に参加できるよう支援している。	利用者が地域の行事に参加したり、ボランティアが訪問する等の交流がある。利用者の希望により銭太鼓を行ったり、カラオケを行うなど、楽しく過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の認知症の方にも積極的に支援を行い、カラオケやお話し合い等で昔のことを思い出して、自分の経験してこられたことを実践されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、運営推進会議にご出席された方々の貴重な進言等に耳を傾け、改善を行っている。	市の担当、事業所代表者、地元の代表者等が参加し、運営状況について報告をしたり、提案をもらう等、運営推進会議を利用し、サービスの向上に努めている。	運営推進会議の参加者として、家族にも事業所のことを知ってもらったり、さらに様々な情報やアイデアを得るために、幅広く声かけをし、たくさんの人に参加してもらえることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	4月に事業所を開設したばかりなので不明な点が多く、市の担当者いろいろなご指導をいただいている。	不明な点があれば、その都度、市の担当者へ問い合わせをするようにしており、連携はとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。	身体拘束に関するマニュアルを整備し、拘束にあたるようなケアはしないよう取り組んでいる。玄関は開放しており、日中は施錠をせずに、出入りは自由にできる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	国・県等の方針に基づき勉強を行い、利用者様の訪問時に自宅や、また、事業所内での虐待防止に努めている。		

多機能型ホーム 綾歌の太陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアプランにより自立支援を利用者様ごとに行っており、成年後見制度等については研修会で勉強をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时及び契約時に必要な事柄や、料金改定時等において重要事項説明書・運営規程等を口頭で読み上げ、解かりやすく説明し、利用者様に納得をしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	見学会や体験会等を随時実施し、面談等を行い、当事業所の内容を説明している。また、意見箱を設置し、利用者様の意見をお聞きし改善に努めている。	利用者や家族との普段の会話の中で、意見を聞くようにしている。また、契約前に利用体験することができ、事業所の理解を深めてもらい、その後、喜んで利用してもらえることにつながっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は随時現場の職員と対話できる形を取っているため、即断即決し、改善に努めている。	職員と管理者が話しやすい関係にあり、日常の会話の中で、意見交換はできている。また、研修があれば、積極的に職員に参加してもらえるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開業したばかりであるため、職員には無理を言っているが、早期に収支を改善し、やりがいのある職場としていきたい。また、知識レベル向上のため、各資格取得に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修にも積極的に参加させ、資格取得等、知識・技術のレベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護職員の管理者、ケアマネージャーと施設長は介護の経験が長く、人脈があり積極的に情報交換、人脈利用を行っている。職員は資格取得時、講習会等で人脈作りに努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様本人及びご家族の皆様にご事業所を体験していただき、雰囲気等に納得してもらってから利用してもらっている。面談時には今までの経歴等をよくお聞きし、改善できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新しく利用されようとする方に見学・体験をしていただき雰囲気に慣れてもらい、利用者様の要望をお聞きし、ケアプラン等を作って確認してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	じっくりと利用者様、ご家族のご要望に答えられるか否かを見ていただき、納得をしてご利用してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様が少しでもゆったりと自分の時間が持てるように考え、個人個人を人生の先輩として接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様のご家族・親戚の方に自由な時間に訪問していただき、家族との対話・交流がゆっくりと持てるように配慮している。現在、ご家族・親戚の方がよく見られている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元中心で運営を行っているため、いつでも訪問してもらえる体制を取っているため、地元有志のカラオケ大会や部外者の舞踏・大正琴・フラダンス等の訪問がある。	小規模多機能型の特徴を活かし、これまでの人とのつながりを継続しながら、地域の行事に参加したり、馴染みの人が訪問してくれるなどの関係がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いろいろな人生経験をされてこられた方が利用されているので、できるだけ共同の場が持てるように、カラオケを中心に、季節のお絵描き、催しもの、毎月のカレンダー作り頑張っている。時々外出し、お買い物、まんとう公園等の遊山にお連れしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	それぞれの理由があって利用契約が終了された方でも、今までの馴染みの関係を活かして時々訪問し、相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約の時やちょっとした談話の時に、利用者様の今まで生きてこられた人生体験等をお聞きし、要望等があれば対処している。	利用者の普段の会話や表情から思いを汲み取るようにし、その思いに沿って日々のケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約の時やちょっとした談話の時に、利用者様の今まで生きてこられた人生体験等をお聞きし、要望等があれば対処している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態、その日の状況等を把握し、利用者様の身体の状態を連絡帳等に記載し、職員全員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心となり、自ら現場に入り、利用者様の状況を見て対応・指示を行っている。現場で感じ、対応した結果を介護記録に記載し、重要な動きがあった場合には家族・主治医に連絡し、現状に即した介護を行っている。	毎月モニタリングを行い、3ヶ月ごとに計画の見直しを行っている。見直しをするときには、職員や家族からの意見を反映している。また、利用者の残存機能を活かせるようなケアにも取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には利用者様の状況を記載し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様一人ひとりに声をかけ、また、利用者様は家族の一員として接している。小規模多機能のメリットを活かして取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元中心で、近くの人や家庭の事情が分かる人が多く、昔からのお付き合いを継続して取り組んでいる。また、家族的でお節介をする間柄である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元のくすはら内科・整形外科を中心とし、専門医は、滝宮総合病院を紹介してもらっている。また、個人病院に対しても送迎を行っている。	かかりつけ医の受診は、希望により送迎を行っている。家族や利用者の都合にあわせて柔軟に対応している。また、受診時には、健康状態の把握や普段の様子を医師に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者数との関係もあり、現在はパートの看護職員で対応している。看護の立場から、専門的に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地元医療機関との関係を密にし、利用者様の健康状態を見て処置してもらっている。医院からも総合病院への紹介等の支援をもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在のところ重度化した利用者様はいないので、ご家族と話すことはないが、状況が変われば関係者とともにチームを組んで支援していきたい。	契約時の話の中で、意向を確認することがある。現在は、重度化や終末期に向けて検討しなければならない利用者はいないが、今後、対応方針についてまとめていく予定としている。	緊急時の対応も含め、重度化や終末期における意向の確認を利用者や家族にするとともに、事業所の方針を理解してもらっておくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応については、ケアマネージャー・介護福祉士の今までの経験を活かし対処している。また、緊急を有する場合は、救急車を要請したことがある。看護師の指導で、今後実技を習得していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策マニュアルに基づき対応していく。火災訓練は実施している。今後、地元自主防災会・川西地区防災会の支援を仰いでいく。	年2回の災害訓練をしている。消防署にも来てもらい、実際に消火器を使った消火訓練を行った。連絡網や対応マニュアルは作っている。	夜間想定訓練や地震災害への対応、防災会との連携については、今後取り組む予定となっており、利用者の安全を守る体制作りをさらに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の一人ひとりの、今まで生きてこられた環境等に配慮し、声かけを行い、今日一日を有意義に過ごしてもらっている。	事業所を利用することについて、本人の気持ちが尊重されるよう、家族にも働きかけることがある。また、生活歴や生きがいを聴き取るときにも、一人ひとりのプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	絵付け、工作、カラオケ等の自己表現ができる場の提供を行い、楽しさを味わってもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ共同での場の活動を考えて支援しているが、一人でゆっくりしたい利用者様に対しては、行動を尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出入り自由のため、利用者様の行動に配慮し支援している。おしゃれをされてきた時は「きれいですね」など声をかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好に合わせた料理の対応はできていないが、歯の悪い方等には軟飯、きざみ等の個別対応を行っている。食事の片付け等は、できる限り利用者様に協力してもらっている。	利用者の希望に沿ったメニューを考えたり、一緒に調理をしたり、利用者が畑で作った食材や産地にこだわった米を利用する等、食事を楽しむことができるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	白内障の手術を行わなければいけない方に栄養管理を行い、血糖値のコントロールを実施し、血糖値が下がり、手術が成功した事例がある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に応じて支援を行っている。昼食前には嚥下予防のため、カラオケ体操を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、利用者様の排泄パターンを把握し、できるだけ早めに誘導し自力で行えるようになっている。	適時にトイレ誘導をする等、排泄の自立へ向けた取り組みをしている。ベッドから起きて排泄できるようになったり、リハビリパンツから布パンツへ変更する等、改善された例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い野菜類を多めに食事し、大便のコントロールは、処方された薬を服用し、排泄時間を昼間に合わせるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	泊まりの利用者様は、朝一番に広い浴槽にゆったりと入浴し、くつろいでもらっている。また、通いの利用者様の来所を待ち、お友達と一緒にゆっくりと入浴してもらっている。皆さんいい湯だなと言われている。	広い浴槽でゆったりと入浴できる。重度化した場合も対応できるように、機械も設置している。二人で入ったり、希望により一人で入浴することもできる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	泊まりの方は、夕食後は自由に自室・ホールにて過ごされている。通いの方で、身体の不自由な方に対しては、空き部屋を開放し休養してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬剤の中味を確認し、介護職員が分かるように服用明細表を作成している。また、バイタル表等の活用を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	広報ボードに『今日は何の日』を、字の上手な利用者様に書いてもらっている。また、元気な人には、菜園で野菜づくりしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	元気な人は出入り自由で活動してもらっている。また、季節の花見等の気分転換を行っている。時にはパン屋さんや皆さんで買い物に行く機会もある。	職員と利用者が一緒に出かけ、喫茶店へ行く等、楽しみがもてるよう支援している。また、泊っている利用者にも外に出る機会をつくり、できるだけ外気に触れられるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	独立心の強い利用者様は自分自身でお金の管理を行っておられる。管理できない方は家族が管理している。医療費等は事業所にて立替払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お友達との交流を進めるため、自由に電話を利用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂ホールには、利用者様が持参された花が飾られ、利用者様が水替えを行ってくれている。また、事業所の造りは明るく、快適な空間を作り出している。	利用者が、一日のほとんどを食卓の前に座ったままにならないよう、共用空間にソファを置き、利用者がゆったりとくつろげるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カラオケホール・手作りコーナー等、時期・時間に応じて活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が自由に居室まで入室できるので、他の人に気を使うことなく、家族の団欒が図られている。一部の方は愛用の道具等を持参し、居心地が良いようにされている。	使い慣れた物を持ってきてもらい、自宅から生活場所が移っても、居心地良く過ごしてもらえるようにしている。ベッドとタンスは備え付けで、少し広めの居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	皆さんが仲良く家族のように助け合い、声をかけ合い生活をされている。		